

2019 思春期保健指導者研修会

～ここに響く話をするために～

思春期世代の若者に、健康に関することについて話をするとき、こちらが伝えたいことがうまく伝わらないと思ったことはありませんか？

正しい知識があるのに、専門職なのになぜ話が伝わらないの？

今どきの若者ってどうして話を聞かないの？

話を聞いてくれているのに手応えがない…

そんなことを思いながら話をしたことはありませんか？

思春期世代にどんな話をすれば耳を傾けてくれるのか、どういう話し方をすれば伝わるのか、どんな話が行動変容に繋がるのか そんなことで悩んだことはありませんか？

思春期の子どもたちなどを相手に年間 100 回以上の講演で全国を飛び回る岩室紳也と、「神様がくれた HIV」の著者北山翔子、神奈川県で様々な子どもたちの支援に当たってきた富岡順子が思春期世代を相手にしたプレゼンの極意をお教えします。

子どもたちを笑顔にするお話しをしてみたいと思いませんか？

子どもたちの心に響くお話しをしてみたいと思いませんか？

コツさえつかめば、誰にでもできるのです。

たった2日間の研修で、皆さんも相手に伝わる話ができるようになります。

日 時：2019年2月10日（日）～2月11日（月：祭日） 10：00～17：00（2日目9：30～16：30）

講 師：岩室紳也、北山翔子、他

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター 会議室

東京都渋谷区代々木神園町3-1



定員：20名

参加費：16,000円（懇親会費は含みません） 宿泊費：3,500円 懇親会費：4,000円（いずれも予定）

申込開始：2018年8月10日予定

思春期保健指導者研修会とは？

思春期の子どもたちに話をする仕事に携わる人、そういう仕事に興味がある人を対象とした2日間の研修です。思春期の子どもたちに、健康に関することについて話をするとき、こちらが伝えたいことがうまく伝わらないと思ったことはありませんか？

どうすれば伝わるのか、どうすれば話に耳を傾けてくれるのか、どんな話が行動変容に繋がるのか そんなことで悩んだことはありませんか？

そんな方のために、岩室紳也、北山翔子らが2日間かけて受講生が相手に伝わる話し手になっていただくコツをお伝えします。それが、「思春期保健指導者研修会」です。

2日間で本当に話せるようになるの？

予防に関するお決まりの、スローガンだらけの話をするのは簡単です。でも、思春期の子どもたちに伝わるような話をするのは難しいのです。それを2日間でできるようになるなんて、信じられないと思うでしょうけれど、講師の私たちが驚くほど、受講生の皆さんは変わっていきます。

話せる人を育てたい

北山はある講演で大学生から「今まで中学、高校と6年間、学校でHIV/AIDSの話を聞いてきたのに、北山さんの話を聞いて初めて自分の問題だということに気づいた」と言われました。この子たちは、どんなHIV/AIDSに関する話を聞いてきたのだろう…と思いました。学校などで子たちに話すチャンスがあるのに、せつかくの話があまり役立っていないのはもったいない。思春期の子どもたちの心に届く予防の話ができる人を育てたい、という思いのもと、2日間の研修を実施したところ、たった2日間で、受講生の話が驚くほど変わりました。

伝わる話の技術はコミュニケーションの力になる

研修の中で、どうすれば伝わるのかということをとことん考え、他の受講生の話聞きながら自らの話を振り返るというセッションを繰り返します。その結果、短時間でプレゼンテーションの技術をしっかりと身につけることができるのです。2日間の研修の間、私たちが自らの経験からプレゼンの極意を、精一杯お伝えします。

「伝わる話」をとことん考えることで、人と関わる力が自然と身につけていきます。

きつい研修だけれども成果は膨大

受け身ではなく、演習が多いため、受講生の方にはかなりきつい内容ですが、人前で話すことへの自信をしっかりと身につけて帰ることができます。研修が終わる頃には、皆さんが「早く人前で話がしたい」と思うようになるでしょう。

22人の講演が聴ける？

この研修会では、他の人の話を3回聴くことができます。すなわち、2日間で岩室、北山らだけではなく、自分自身を除く19人の受講生の話も聞くことができる、絶対に他では経験できない場です。

思春期保健指導者研修会の日程

2月10日（日） 1日目

9:45～ 受付

10:00～10:30 オリエンテーション・自己紹介

10:30～12:00 講義：思春期の理解（岩室紳也）

思春期対策のみならず、様々な健康課題の背景にある「関係性の喪失」、「居場所の喪失」、「自己肯定感の低下」、「コミュニケーション能力の低下」といった課題を克服するために何が必要か。正しい知識は当然のこととしても、その知識や情報を共有する仲間とのコミュニケーションがなければ生きる力は育めません。この「生きる力」は学校現場がいま、力を入れて取り組もうとしつつも、なかなか、何から、どう手を付ければいいのか悩んでいることでもあります。生きる力を呼び覚ますためには他者の経験に学ぶことが不可欠です。そのためにも伝え手はスローガンではなく、こころに響くメッセージとは何かを考える必要があることを確認します。

12:00～13:00 昼食時間（昼食は持参、もしくは施設内の食堂で）

13:00～14:00 講義：経験を伝える（北山翔子）

HIV（エイズウイルス）に感染している保健師の北山翔子は自分自身の経験を伝えることを通して、HIV/AIDS が一人ひとりにとって身近な問題であることを実感できる講演を全国で行ってきました。そのメッセージを直接聞くことで、こころに響く話とはどのようなことなのかを実感する機会です。

14:15～17:00 演習：私のメッセージ①

3分間という制限時間の中で、自分が伝えたいメッセージを皆の前で一人ひとりが発表する。一人ひとりに講師がメッセージのどこに問題（スローガン等）があったか、どこが良かったか（経験談等）を学びます。他人の発表とそれへの指導を通して自らの課題にも気づく機会となります。

17:30～19:30 懇親会

国立オリンピック記念青少年総合センター内の食堂で 希望者+講師全員参加

情報交換、研修会で聞けなかった話を本音でぶつけ合える場。研修会よりも役に立つとの評判です。

2月11日（月：祭日） 2日目

9:30～12:00 演習：私のメッセージ②

前日の反省を踏まえた2回目の発表はほとんどの人で見違えるほど素晴らしいメッセージになっています。しかし、細かい所を修正することでさらに伝わる、心に響くメッセージになることを確認します。他の人の変化と一緒に確認させてもらうことが自らの学びにもなります。

12:00～13:00 昼食時間（昼食は持参、もしくは施設内の食堂で）

13:00～13:30 講義：色々な子どもへの性教育

保健師として「色々な子ども」と接してきた保健師が、いま、何を、どう伝えればいいのか、子どもたちが何を望んでいるかをお伝えします。

13:30～16:30 演習：私のメッセージ③+まとめ

3回目の発表では、受講生同士が「変わった」、「こころに響いた」とお互いが実感できるメッセージになっています。実際にはPowerPointを使っても、3分メッセージを随所に盛り込むことで、以前とは格段に違う、こころに響くメッセージが伝えられるようになること間違いなしです。